

ネイパル親子キャンプ「いっぽ」

■ 事業のねらい

宿泊生活や共同生活を体験し、親子の絆を深めるとともに、子育てに関する親同士の情報交換をする。
また、家庭における基本的な生活習慣や生活リズムについて見直し、改善を図るきっかけとする。



- 実施日 平成 25 年 2 月 9 日（土）～ 2 月 11 日（月）（2泊3日）
- 参加対象 幼児～小学校 4 年以下の子どもとその保護者 30 名
- 参加実績 参加者：3 家庭 14 名（幼児 4 名、小学生 4 名、保護者 6 名）
室蘭市（1 家庭 保護者 2 名、幼児 2 名、小学生 2 名）
伊達市（1 家庭 保護者 2 名、幼児 1 名、小学生 1 名）
ニセコ町（1 家庭 保護者 2 名、幼児 0 名、小学生 2 名）
- 備考 活動場所：洞爺少年自然の家

1 事業実施の背景

近年、核家族化や少子化をはじめとした家庭を取り巻く環境の変化の中で、親の育児不安の広がりやしつけへの自信喪失などが問題となっており、平成 22 年度に行われた「道民意識調査」においても、家庭の教育力が低下していると考えられる道民が 8 割以上に上るなど、家庭教育の低下が指摘されている。

家庭の教育力が向上するためには、子どもが望ましい生活習慣を定着させ、心身の調和のとれた発達が図られるよう、家庭教育に関する学習情報・学習機会の提供や相談体制の充実が必要であるとともに、親子協同での体験活動の場や機会を充実させ、親子のふれあいを深める必要がある。

当事業は、以前より当所で行われてきた、親子を対象とした家庭の教育力の向上を目指す事業の反省などを基に、集団生活や宿泊体験活動の中で、親子の絆を深めるとともに、家庭での生活リズムの定着化や保護者同士の子育てに関する情報交換、親が子どもの成長に気づく場面の設定、参加者同士の交流の深化、などの効果をあげることを目的として実施するものである。

2 プログラムデザイン

1日目 2月9日(土)																
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
受付:ネイパル洞爺 (13:00～13:30)							受付	は じ ま り の 会	雪 と あ そ ぼ う	ひ つ つ み な べ を か こ も う	ス ポ ー ツ タ イ ム 生 活 リ ズ ム を 考 え よ う	今 日 の 記 録	入 浴 自 由 時 間	幼 児 就 寝 自 由 時 間	就 寝	
2日目 2月10日(日)																
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
起 床 洗 面	朝 の つ ど い	朝 食	準 備	冬 の 森 を ハ イ キ ン グ	子 ど も の 料 理 タ イ ム 大 人 の 料 理 タ イ ム い っ し よ に た べ よ う			準 備	シャ ー ベ ッ ト づ く り ス レ ッ ド リ レ ー	休 憩	夕 食	入 浴	今 日 の 記 録	わ く わ く タ イ ム 大 人 タ イ ム	幼 児 就 寝	就 寝
3日目 2月11日(月)																
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
起 床 洗 面	朝 食	清 掃	点 検 移 動	絵 手 紙 づ くり			お わ り の 会	解 散 12:00								

■ アクティビティについて



■ 意図

- 冬の洞爺の自然環境を生かしながら、親子協同で行う体験活動を取り入れ、親子の絆を深めるプログラムを設定した。
- 保護者同士の交流の深化を図るとともに子育てに関する情報交換を行う場を設けるようにするため、大人のみで歓談を行う「大人タイム」を設定した。
- 生活リズムの大切さに親子で目を向け、早寝早起き朝ご飯の定着を図るため、「生活リズムチェックシート（以下、シート）」を活用した。

■ 留意事項

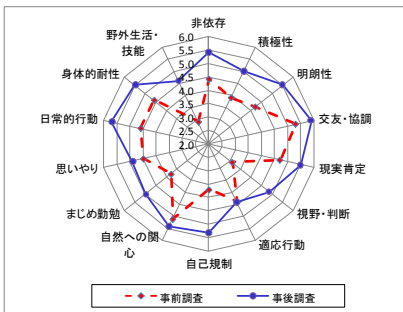
- 事前に参加する幼児・児童の起床時間や就寝時間などのシートの項目や、子育ての悩みについてアンケート調査を行い、プログラム展開の参考資料とした。
- 親が子の変容に気づけるよう、子どもと大人が、別々に取り組んだものを互いに確認できるプログラム設定をした。
- 参加者に幼児が多くなることが考えられたため、活動時間については準備を含めて多めにとり、時間にゆとりを持たせた。

3 活動の様子



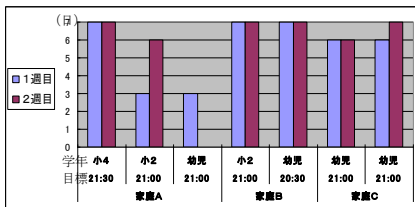
4 事業評価

《 I K R 調査結果 》

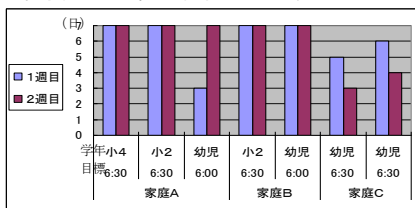


《生活リズムチェックシート調査結果》

・各家庭での目標就寝時間達成日数



・各家庭での目標起床時間達成日数



5 まとめ



■ 当日の様子

- 家庭の枠を崩したグループでアイスブレイクや調理活動を実施したことによって、参加者同士のふれあいを深めることができた。初日から参加家族同士で声をかけ合うなど、リラックスした雰囲気の中で活動が行われた。
- 子どもたちのみで構成したグループで行った活動では、小学生が幼児の世話を自主的に行う場面が見られた。
- 「大人タイム」では、保護者同士で、図書館の読み聞かせ活動の情報や、子どもに接する際に注意していることなど、各家庭での子育てに関する話題が積極的に交わされ、情報交換の場として有意義なものとなった。

■ 参加者の声 (アンケートから)

- 家族旅行では味わうことのできないことがたくさんあったような気がします。
- 子ども同士で遊んでいる様子から、成長を見ることができました。
- 生活リズムチェックシートは、普段の生活を見直すよい機会になった。

■ 評価方法・重点

本事業では、親子の絆を深める他、幼児・児童に対しては、集団生活の中での自立や他者の尊重を意識づけるとともに、規則正しい生活リズムの定着を目的とした。そのため、2歳児を除く7名の幼児・児童を対象に修正して実施した I K R 調査では、「日常的行動」「非依存」「交友・協調」「視野・判断」の向上に重点を置いた。また、シートへの取組を通して、子どもの生活リズムの定着についても向上を目指した。

■ 幼児・児童の変容と分析・考察【 I K R 調査結果 】

適応行動を除く全13項目が向上し、1ポイント以上の変容を見せた項目は、「非依存」「積極性」「明朗性」「視野・判断」「自己規制」「まじめ勤勉」「日常的行動」「野外生活・技能」の8項目となった。

重点項目では、「日常的行動」で1.1ポイント向上がみられた。就寝時間前に自主的に就寝する参加者がいるなど、早寝早起きについて参加者が意識した結果と考えられる。運営側が意図した生活リズム定着につながるという点で、今回の事業での成果に挙げることができる。また、「交友・協調」は0.6ポイント向上と、比較的伸びが低いものの、事前調査の数値が5.3ポイントと高かったことが一因であり、事後では5.9ポイントと高い数値を示した。

「視野・判断」が1.8ポイント、「非依存」が1.0ポイント向上したことについては、他の家族との活動や集団生活の中で、子どもたちがどのような行動をとればよいのか、を意識して行動した結果と考えられ、「自己規制」の1.6ポイント向上も同じ理由と考えられる。

その他、「積極性」が1.1ポイント、「明朗性」が1.3ポイント向上しており、少人数のグループ構成で行う活動の中で、興味ある題材と向き合い、自分の考えが表現できたことが自信となったと考えられる。

■ 幼児・児童の変容と分析・考察【生活リズムチェックシート】

参加した各家庭で、事業開始から継続して2週間、シートを記入してもらうようにした結果、就寝・起床時間の目標達成日数の変化に一定の効果がみられた。

家庭により差が出ているが、就寝時間に関しては、1週目から2週目にかけて日数維持、もしくは向上につながった結果が示され、事前調査に比べ平均して就寝時間が約17分早くなった。また、起床時間に関しても2家庭で日数維持・向上となっており、平均して約20分起床時間が早くなったことから、シートにより、生活リズムを意識する効果が認められた。

朝食に関しては、事前調査から全参加家庭で食べられており、事後も継続されている。

■ 成果

- 集団生活で他者との関わりが増えたことにより、子どもたちの視野が広がり、自主的な判断で行動する意識を高めることができた。
- 大人タイムにおける歓談では、子育てに関する情報交換が積極的に行われ、保護者同士の交流と子育てに関する情報交換という目的に達することができた。
- シートを配布し、活用を促すことにより、事業終了後に向けた家庭における生活リズム定着の意識づけを行うことができた。

■ 課題・今後の方向性

- I K R 調査等から、豊かな自然環境の中で親子共同での体験を実施することは、親子の絆を深めるとともに、親子での生活リズムの向上につながることから、プログラムの内容を精査しながら教育施設として今後に取り組んでいく必要がある。
- より多くの家族や親子に参加してもらうためには、学校だけではなく、子育てサークルや支援センターなどへの広報活動の工夫が必要であるとともに、参加者から情報を収集し、1泊2日からはじめて参加者を増やし、満足度を高めて2泊3日の日程事業に設定したり、時期を検討することで保護者がより参加しやすい環境づくりや工夫が必要である。